



SNS に投稿されていた写真の瞳に映っていた画像から、住まいが特定されストーカー被害にあった事件を、マスコミ各社は 2019 年 10 月に一斉に報じた。6 年以上も前に注意を喚起された事件が、SNS の普及とカメラ性能の向上により、現実のものとなった。スマホや SNS を便利に利用する時代から、スマホやネットの利用を自制するマナーを身に着け、スマホ断ち・ネット断ちを心がける時代へ移る時期に来ているとあってよい。

### 瞳に映った景色から被写体や場所を特定される時代に

マスコミ各社は、「9 月 1 日の夜、マンションに帰宅したアイドル活動をする 20 代の女性に対し、わいせつな行為をして怪我をさせたとして、容疑者が逮捕され起訴された」事件を一斉に報じた。英 BBC ニュースも日本のこの事件を報じていた。

この事件が関心を集めたのは、記事見出し「『瞳映った景色』で女性宅特定か」（NHK NEWS WEB、2019 年 10 月 8 日）にあるように、容疑者（26 才）が SNS に投稿した女性の顔写真の瞳に映る景色を手掛かりに女性の住まいを特定し犯行に及んだからである。

この女性の瞳に映っている画像から、グーグルマップのストリートビュー機能を使い、駅の風景から女性宅近く駅を割り出したばかりではない。彼女の SNS の映像から窓のカーテンの位置や窓の光の射し方などから、女性の部屋の位置まで特定していたという。

実は、一昨年の 2017 年 1 月には、瞳の画像を手掛かりに容疑者逮捕の支援に成功した事例が報告されていた。徳島県警がスマホ写真の被害者の瞳画像を解析し、容疑者の顔の解析に成功した事件である（「徳島県警 スマホ写真、被害者の瞳に容疑者の顔 解析成功」、毎日新聞 2017 年 1 月 24 日）。この時は、鑑識課の専門家による解析であった。

更に、6 年前の 2013 年 12 月 27 日（オリジナル版）には、英ヨーク大学心理学部ロブ・ジェンキンス博士の研究成果として、瞳に映っている人物を特定できることが報告されている（「顔写真の瞳に写る真実、瞳孔を拡大することでその時一緒にいた人物をほぼ特定できることが判明（英研究）」、カラパイア、2014 年 1 月 13 日、和訳版）。

同報告は、「人質や虐待など被害者が写真に写っているような犯罪の場合、その被害者の瞳孔に反射して写っているものから加害者を割り出せることができるかもしれない。また、犯罪調査中に証拠として押収したカメラから取り出した画像を使って、他の犯罪グループとの関連を結びつけたり、特定の場所を割り出せることもできるだろう」とも記している。

## 個人情報が悪用されるのを防ぐには

今回の瞳に映っている情報が解析され悪用された事件は、スマホ、デジカメ、パソコンなどデジタル機器に保存されたデジタル情報は、誰もが盗み見されたり、悪戯されたり、悪用されたりする時代が来ていることを示している。

一番の問題は、デジタルデータの解析や編集が、ITの専門家でない素人でも簡単にできるようになっている点である。前述のデジタルストーリーのスキルは不明だが、ネット上にはスマホのロック解除の方法、デジタル情報の解読法など、山ほど紹介されている。

たとえば、スマホの指紋のロック解除をするには、100均を利用した指紋採取と複製の方法が紹介されている。検索エンジンで、{指紋 粘土 100均 ハッキング}とキーワード検索すれば、沢山の解説記事が入手できる。

ハッキング方法は他にいくつもあるし、実際にとんでもない事件も起きている。たとえば「寝ている親の指で指紋ロック解除、6歳児がポケモン商品を大量購入」（CNET Japan 翻訳、2016年12月28日）が、注目を集めた。幼児でも簡単にできるのである。

それだけではない。悪用を支援するソフトやアプリが、ネット上にいろいろ配布されている。最近話題になったのは、服を着た女性を裸にするアプリである。このアプリは、批判されてすぐに削除された（出所、「女性の写真をAIで裸に...物議のDeepNudeは、相次ぐディープフェイク問題の『氷山の一角』」J-CAST ニュース、2019年7月2日）。

ディープフェイクとは、アイコラ（アイドルの画像と他の画像と合成した画像）の動画版である。有名人の顔を動画ですげ替えるディープフェイクは、2年前の2017年に登場し2018年に大きな話題を集めた。ハリウッドの有名女優だけでなく、オバマ前大統領やトランプ大統領のディープフェイクまで登場したからである。

我が国でも今年に入って流行っている。有名タレントのディープフェイクがマスコミで紹介され注意が喚起された（出所「広瀬すず、新垣結衣が「裸」にされる「ディープフェイク」とは？」、週刊新潮 2019年8月1日号）。

更に、素人でもニセ動画を簡単に作成するスマホ・アプリまで登場している。中国で、誰もがディープフェイクムービーをiPhone上で簡単に作れるアプリ「ZAO」が、今年2019年8月に公開され、関心と批判を集めた。

このようなトラブル対策としては、スマホ内の写真や動画はこまめに処理しておく。さらにSNSやブログに不要な写真や動画はアップしないようにし、友人との間での写真・動画の安易な交換は、避けるようにする。他人に渡した写真や動画は、どう利用されるかわからないからである。実践するのは容易ではないが、心がけるしかない。

最終的には、スマホ断ち、ネット断ちと言われるように、スマホやネットの使用を自制するマナーを身に着けることが、必要になるといってよい。（TadaakiNEMOTO）